

8-4		主題	また帰りたいと思える場所とケア	
逆デイサービス		副題	逆デイサービスケアを通して	
研究期間	9ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 清風園	
発表者：柏柳 友美（かしわやなぎ ともみ）		アドバイザー：山下 朝美（やました あさみ）		
共同研究者：鈴木鮎美・加藤勇輝				
電話	042-735-3000	メール	ishihara.h@san-ikukai.or.jp	
FAX	042-734-8933	URL	http://www.san-ikukai.or.jp/seifu-en/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	特養、定員110床、4人部屋22室、3人部屋1室、2人部屋1室、個室22室。他にデイサービス、グループホーム、訪問看護、訪問介護が併設された複合施設です。
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 以前より、逆デイサービスのケアを実施していたが、実施回数も極めて少なく、参加ご利用者も決まっていた。 ○ フローリングに簡易テーブルと椅子がある非日常的な環境で行い、行う事も決まっており、ケアではなく余暇に近い行事になっていた。 ○ 介護課ではなく他部署が行っていた為、現場の職員は逆デイサービスの試みを知らず、余暇を行っているものだとの認識があった。 ○ 現場の職員が関わっていなかった為、逆デイサービスの中で、ご利用者の新しい一面を見る事が出来ず、日常のケアに活かす事が出来なかった。 ○ 園から離れた場所で行っていた為、ご利用者の希望に添えない事があった。
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ より多くのご利用者に参加していただく為に、月1回以上の逆デイサービスを実施する。 ○ より自分らしさを引き出すことを期待して、施設的な空間から暮らしなれている空間を用意する。 ○ 自身で選択できる時間を増やし、コミュニケーションの場にもなることを期待して、買い物等に取り組んだ。 ○ 自分らしく生活してもらう為に、掃除や洗い物、食事の準備などに取り組んだ。 ○ ご利用者の希望に添えるような環境に近づくことを期待し、職員へ連絡が取りやすい同法人が経営している園隣の清林ハイツを使用。 ○ 畳の部屋を使用する事で回想法を利用した認知症の予防に取り組むことができた。
--

《具体的な取り組みの内容》

- 2009年8月に他施設の逆デイサービスの見学をする。
- 9月に関係部署で会議を行い、費用・場所・中心となる職員を決定。
- 実施時間：10時から16時
費用：一人1,000円。
ハイツ使用料：1日500円
対応職員：1回2人+協力職員
参加者数：1回3~4名
- 10月より、月1回の逆デイサービスを一間の和室で行う。
- 2010年2月より、月3回の実施。
- 同月より二間の和室・キッチン付の部屋へ移動し、調理を開始する。
- 5月より担当職員だけでなく、フロア職員も逆デイサービスに取り組む環境を作る。
- 同月に食器棚を設置、食器類一式を準備（寄付）
- 必要物品のみ購入する。（予算3,000円程度）
- 実施までの流れ
担当職員が参加ご利用者を決める→企画書の作成→各課に確認・報告→実施。

《取り組みの結果と評価》

- 月1回では参加ご利用者が限られる為、月3回へ変更する事で、より多くのご利用者が参加できた。
 - 一間の部屋からキッチン付きの二間の部屋へ変わり、調理の実現やよりゆっくりとした生活が可能となった。
 - 買い物や調理をし、より日常的な生活、選択できる時間を作ることによって、より自分らしく生活する時間が持てた。
 - 隣のハイツを使用することにより、担当ではない職員も行き来ができ、より連携がとれた。又、ご利用者の体調や希望に沿ったケアも出来た。
 - 逆デイサービスの中のみだが、食事量のアップや、意欲の増進に繋がった。
 - 担当者以外の職員も参加する事によって、逆デイサービスの認識が出来、ご利用者の変化を見ることにより、日常のケアを見直す機会にもなった。
- ＜まとめ＞
- 畳のある‘家’を使うことによって、食事中「こうして食べていると家族みたいだね」と自然と言葉に出てきたり、全てご利用者ではないが、外出してから家へ帰ると自然と「ただいま」という声が出ていた。また、「次はいつあるの？」と話して下さることからご利用者の方にとっても居心地の良い場所になって来ているのではないかと。
 - 決められたケアではなく畳の部屋を使用し買い物や調理など自分で選んで行動する時間を作ることにより、安心する、また帰りたいたいと思える場所となった。

《提案と発信》

逆デイサービスは、まだ介護界でも確立されておらず、常に手探りの状態で行っています。また、逆デイサービスの中により個々に向けたケアを行う為に生活歴などを調べ、趣味などを取り入れ始めています。今後もより楽しくより自分らしく過ごして頂ける逆デイサービスを目指し取り組んでいきます。

【メモ欄】